

泌尿器科学系

泌尿器科とは副腎、尿路臓器（腎臓、尿管、膀胱、尿道）、男性性器（前立腺、陰茎、精巣）などの疾患を診断・治療する科です。高齢化に伴い尿路性器悪性腫瘍（膀胱癌、前立腺癌）や下部尿路機能障害（前立腺肥大症、過活動膀胱、神経因性膀胱）は、増加することが予想されており、社会的ニーズも高まっています。また、女性泌尿器科（骨盤臓器脱、腹圧性尿失禁）や小児泌尿器科（膀胱尿管逆流、停留精巣、尿道下裂）の診断・治療も行っています。

泌尿器癌

腎癌、腎盂・尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌、陰茎癌などの診断・治療を行っています。平成 28 年 1 月に手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入し、局所前立腺癌に対して、密封小線源療法、強度変調放射線治療（IMRT）、ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術という最新治療法のすべてが施行可能となりました。



ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術の風景

腹腔鏡手術

副腎腫瘍（褐色細胞腫、原発性アルドステロン症、クッシング症候群）、腎盂・尿管癌、浸潤性膀胱癌に対しては積極的に腹腔鏡手術を行っています。若い先生方が技術を習得できるように腹腔鏡トレーニングボックスと教育用 DVD を設置しています。



医局に設置された腹腔鏡トレーニングボックスでの練習風景

ダ・ヴィンチ手術

ダ・ヴィンチ手術は最初に前立腺癌に適応となり続いて腎癌、膀胱癌の手術へと保険の適応が拡大し認められております。今後ダ・ヴィンチ手術の占める割合が多くなることが予想され、そのため日大板橋病院で研修する際はダ・ヴィンチ手術助手の資格をまず取得して頂きます。

下部尿路機能障害・性機能障害

男性では加齢に伴い下部尿路機能障害（前立腺肥大症、過活動膀胱、神経因性膀胱）や性機能障害（勃起障害、射精障害）が増加し、QOLを著しく低下させます。また、両者には相関関係が認められており、当科では薬物療法を中心に診断・治療を行っています。巨大な前立腺肥大症に対しては経尿道的前立腺核出術（TUEB）、経尿道的水蒸気治療（Rezumi）、前立腺全摘除術後などの高度な尿失禁に対しては人工尿道括約筋を使用した手術、難治性過活動膀胱に対するボツリヌス毒素膀胱壁内注入療法も行っていきます。

女性泌尿器科

女性は出産、加齢、肥満などにより骨盤底筋が緩んだ状態になりやすく、これらのことが過活動膀胱、腹圧性尿失禁、骨盤臓器脱（膀胱瘤、子宮脱など）の原因となっており、合併することも少なくありません。骨盤臓器脱に関しては、腹腔鏡下仙骨脛固定術（LSC）、腹圧性尿失禁に関してはTVTまたはTOT手術を積極的に行っています。

教室紹介

沿革：

泌尿器科学教室は、昭和23年に皮膚科学教室と分離して永田正夫先生が初代主任教授に就任され、以降、岸本孝教授、岡田清己教授、滝本至得教授と引き継がれました。平成17年12月より高橋悟教授が就任され、現在では泌尿器科学系泌尿器科学分野となっています。

日本泌尿器科学会専門医・指導医：

高橋悟（主任教授）、山口健哉（診療教授）、持田淳一（診療教授）、吉澤剛（准教授）、大日方大亮（准教授）。

以上が大学病院の指導医です。関連病院の部長、医長も同資格を有します。

特色：

泌尿器癌、腹腔鏡手術、ロボット支援手術、下部尿路機能障害・性機能障害、女性泌尿器科の臨床および研究に力を入れています。

専門分野：

高橋悟（主任教授）：前立腺癌、下部尿路機能障害、女性泌尿器科、ロボット支援手術。

山口健哉（診療教授）：腎癌、前立腺癌、医療保険制度。

持田淳一（診療教授）：腹腔鏡手術、ロボット支援手術、女性泌尿器科、泌尿器癌。

吉澤剛（准教授）：腹腔鏡手術、ロボット支援手術、下部尿路機能障害、泌尿器癌。

大日方大亮（准教授）：腹腔鏡手術、泌尿器癌。

国外留学：

メイヨークリニック、コロラド大学、フォックス・チェイス・キャンサーセンター、ピッツバーグ大学、モナッシュ大学など。

国内留学：

国立がん研究センター中央病院、虎ノ門病院。

研 究：

症例報告、当院の治療成績や全国の公開データベースを用いた臨床研究や、泌尿器悪性腫瘍に対する分子生物学的な基礎研究など幅広く行っております。直近では2019年、2021年度にそれぞれ大学院生が前立腺癌の基礎研究で学位を取得いたしました。研究成果については、日本泌尿器科学会総会をはじめ、日本排尿機能学会、日本老年泌尿器科学会、日本性機能学会、日本癌学会、日本癌治療学会など積極的に参加・発表を行っております。



2021年度大学院博士課程修了生と高橋教授

後期研修プログラム

1. 日本大学泌尿器科専門研修プログラムは、日本大学医学部附属板橋病院を基幹施設とし、13の連携施設から構成されています。日本大学泌尿器科研修プログラムの基幹および連携施設は都会拠点病院、地方拠点病院からなり、幅広い研修が可能です。さらに、ほとんどの施設が症例の多い拠点病院であり、これらの施設で質、量ともに十分な研修が受けられます。ロボット支援手術や腹腔鏡手術などの最先端医療、女性泌尿器科、小児泌尿器科、透析医療、地域医療などの幅広い領域の研修が可能で、サブスペシャリティー領域の研修も十分に経験できます。また基幹施設である日本大学医学部附属板橋病院では、臨床研究や基礎研究を行うことができ、専門研修後には大学院への進学や専門分野の研修も可能です。基本的には、初期研修終了後4年間で、専門医の資格を取得することを最低目標としています。

2. 連携施設：日本大学病院、川口市立医療センター、JCHO 横浜中央病院、埼玉県立小児医療センター、春日部市立医療センター、東松山市立市民病院、板橋区医師会病院、公立阿伎留医療センター、小張総合病院、湘南藤沢徳洲会病院、東京都保健医療公社豊島病院、みつわ台総合病院、熊谷総合病院。
3. 待遇（後期研修医）：当直（2回程度／月）、アルバイト（2回／週）、休暇（夏期休暇10日、冬期休暇は随時）、給料（初年度70万／月）。

問い合わせ先

泌尿器科医局長 中原 健

E-mail：nakahara.ken@nihon-u.ac.jp

ホームページ：http://www.med.nihon-u.ac.jp/hospital/itabashi/shinryo/g_hinyouki.html